

平成 30 年 5 月 10 日

各 位

埼玉県川越市新宿町 5-13-1  
新報国製鉄株式会社  
問い合わせ先  
総務部 [TEL:049-242-1950](tel:049-242-1950)

第 85 回 定時株主総会の概況について

以下のとおり、定時株主総会を開催いたしましたので、ご報告いたします。

日時	2018 年 3 月 28 日（水） 10：00～11：24
場所	埼玉県川越市新宿町 5 丁目 13 番地 61 住宅展示場「川越ハウジングステージ」インフォメーションセンター
当日出席株主数	30 名
所要時間	84 分
議長	代表取締役社長 成瀬 正
報告事項	第 85 期（平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで）事業報告及び計算書類の内容報告の件
決議事項	第 1 号議案 剰余金処分の件 第 2 号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く）2 名選任の件 第 3 号議案 監査等委員である取締役 4 名選任の件 第 4 号議案 取締役に対する譲渡制限付株式付与のための報酬決定の件 ※全議案賛成多数により承認可決されました

<経営の状況のご説明>

当期（2017 年）につきましては、当初予想だと 2016 年より少し下振れすると予測しておりましたが、液晶、有機 EL が好調で、特に下期に伸びがみられました。またシリコンウエハー用の研磨定盤の売上もあり、株式会社新報国製鉄三重の吸収合併に伴う特別利益を除いたベースで昨年と同程度の数字となりました。

中長期的視点で見ても、液晶、有機 EL 及び半導体等は AI、IOT により用途が広がってくると考えており、また新興国での需要増も見込まれます。従って半導体製造装置・FPD（液晶・有機 EL）製造装置関連向けの低熱膨張合金は長いトレンドで伸びていくと考えております。

この低熱膨張合金が当社のコアになりますので、油断をせずにシェアの確保と更なる技術の向上を目指して邁進していく考えです。基礎を固めたうえで航空宇宙向けの低熱膨張合金及びバイオマス炉向けの耐熱耐磨耗鋼の分野で、新たな材料開発と製造技術の確立を目指していきます。航空宇宙向けの新たな材料開発では、マイナス196度で縮まない低熱膨張合金を開発しており、量産化に向けて、外部機関（大学、各研究所）の方々のご指導を頂きながら、全社を挙げて取り組んでおります。

製造実力においても、本年1月に2トン高周波炉を三重工場に設置し、戦力化しており溶解量月産150トン体制を構築しております。

研究開発、人材への投資を行った上で株主の皆様へどう報いるか、次の技術のために、これから10年先のために今何をすべきかをしっかり考えていきたいと思っております。

これから10年が、知恵の出どころであり攻めの10年になると考えております。

<当社株主総会における株主の皆様からの主なご質問と、当社からの回答の要旨です。>

Q1：インバーの技術が優れていると聞いていますけども、新設した2トン炉は独自に作られたものなのでしょうか。

A1：新設した2トン炉は、独自に作ったものではなく、世の中にある普通の高周波炉です。当社のインバー技術の優位性は、次のようなことで培われたものと思っております。インバー合金（低熱膨張合金）は、ニッケルを37%含むため、ヤング率（強度、剛性）が普通のスティールより低いという特性があり、ヤング率を高くすべく、金属組織を微細化する独自の技術(特許取得済)を、研究部門の若い者が考案した。これを実現するため必要な設備を三重に設置し、さらに工夫を加えた延長線上に、高剛性ゼロインバーがあります。そして、量産化に向け、溶解炉新設による能力増強と生産性向上を図りました。いわば、研究部門で開発した材料を、どのように作り量産につなげていくかを、順を追ってやってきた結果です。

Q2：設備投資の状況及び設備投資への考え方を教えてください。中期経営計画の設備投資計画3年で8.5億ですが、計画よりも前倒しで進捗しているように思えますが？2トン炉以外の進捗状況を教えてください。

A2：我社の強みは意思決定が早いことですので、前倒しではなく必要な時に必要なものをタイミング良く行っております。今回の設備計画の主は高周波溶解炉ですが、それ以外では川越本社の物流倉庫設置を検討しております。

Q3：足元の受注環境は非常に良いと思いますが、増産への対応等現在の考え方を教えてください。また機会損失が発生することはないのでしょうか？

A3：機会損失は絶対に出しません。繁忙期ほど納期を厳守します。2トン炉を新設したこと

により増産対応だけではなく、生産効率も向上しました。昨年入社した新入社員も戦力として頑張っており能率もかなり上がっています。また三重工場内のレイアウトを作業しやすいように変更する等の工夫をしております。さらに協力会社において当社の開発材料を生産する等ファブレスの部分も持っておりますので、このようなことで増産に対応しております。

**Q4:** これから10年で攻めの姿勢を貫くとおっしゃっていましたが、どのような方面に力を向けるのでしょうか。

**A4:** 低熱膨張合金はまだ用途が広がる材料だと思っており、世界に2つとない開発材料を航空・宇宙の分野に向けて特に米国を意識して取組みたいと考えております。もうひとつは人材育成です。従業員は非常に真面目でしっかりとしていますが、まだ教育が足りていないと感じています。これから攻めの経営を考えたとき、ひとりひとりが強い社員になる必要があります。自分の頭で考えられる自立性のある人間を作っていきます。そうすることによってより強い会社になっていくと思います。

**Q5:** 昨年12月に社員に株を渡されたと思いますが、その後の社員の様子をわかる範囲で教えてください。

**A5:** 会社に対する意識も変わったと思いますし、モチベーションも上がっていると思います。

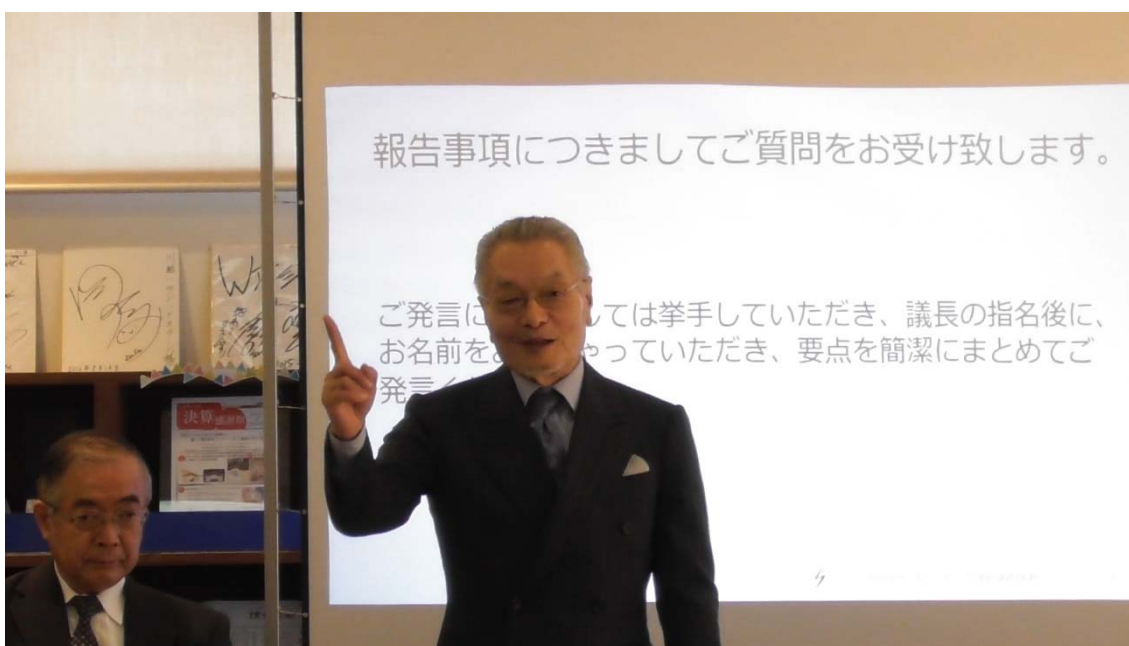
**Q6:** 海外からの問い合わせはありますか。

**A6:** 件数としては少ないですが、海外からの問い合わせはあります。今後当社技術を知って頂くため、英語版のホームページの作成と英語の論文発表を計画しております。

**Q7:** 会社名の変更などのお考えはありますか。

**A7:** 社名変更ですが、費用もかかりますしお客様へも影響が出るため現状、変更は考えておりません。採用の面においても、むしろプラスに働いている面もあります。社名変更ではなく、キャッチコピー等の作成を検討しております。

<株主総会当日の写真掲載>



本資料は投資家の皆様への情報提供を目的としたものであり、記載事項は本株主総会時点での当社の見解であり、今後様々な要因にて変化する可能性があります。また当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありませんので、本資料に依拠して投資判断を下されることはお控えいただきますようお願い致します。